

## 令和2年度 学校評価(教職員による自己評価)

- 重点目標1 キャリア教育の推進を通して、児童生徒一人一人の社会性を育成し、より良い人間関係の構築を目指す
- 重点目標2 教職員の危機意識を高め、学校安全管理を強化する

- 評価基準 A:達成できた(90%以上)  
 B:ある程度達成できた(80%以上)  
 C:やや不十分、一部改善の余地がある(60%以上)  
 D:改善が必要である(60%未満)

### 学部等①【知的障害教育部門 小学部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点目標1	・個々の表出能力を高め、友達と関わりながら活動する力を育む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サインや表情カードの活用等、コミュニケーション能力の向上を目指した指導を継続する。</li> <li>・児童同士が関わりを持てるような学習場面の設定を行う。</li> <li>・振り返りの時間を設けることで充実感や達成感を味わわせ、学習への意欲を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容を工夫し、児童同士の関わりを深めることができたか。</li> <li>・振り返りの時間を充実させ、児童が学びの実感の得られる授業を展開することができたか。</li> </ul>	B
重点目標2	・教員の危機意識を高め、児童が安全で健康的な学校生活を送れるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒヤリハット事例を共有する。</li> <li>・感染症への理解を深め、消毒の徹底や手洗いうがいの励行など、必要な措置を講じる。</li> <li>・児童に関する情報共有、学習環境の整備、保健室との連携等、教育活動全般における緊急時対策を十分に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒヤリハット事例を積極的に活用できたか。</li> <li>・感染症への対策を十分行うことができたか。</li> <li>・十分な安全対策のもと、学習活動を展開することができたか。</li> </ul>	B

学部等②【知的障害教育部門 中学部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点 目標 1	<p>・集団生活での決まりを理解し、主体的・協動的に集団に参加する力を高める。</p>	<p>・「ルールを守る」「自分の役割を知り、自ら取り組む」といったことを学級目標に掲げて、教師も生徒も意識できるようにする。</p> <p>・コロナ感染予防のルールとして、友達と一定の距離を保つこと、正しく手洗いをすることを掲げ、教員が手本を示す。</p> <p>・小集団の学習活動で、生徒が主体的に活動できる役割分担や場面設定を行う。</p>	<p>・生徒がルールを守り、意欲的に自分の役割に取り組むことができたか。</p>	B
重点 目標 2	<p>・教員の危機意識を高め、学習活動全般における安全管理に努める。</p>	<p>・ヒヤリハット事例を共有し、危機意識を高める。</p> <p>・新型コロナウイルス感染拡大防止の取組に基づき、担当者を明確にして、生徒の健康管理、使用教室や物品の消毒を徹底する。また、生徒の実態を踏まえた上で「3密」を避けた学習環境を設定し、指導を行う。</p>	<p>・ヒヤリハット事例を共有し、指導に生かすことができたか。</p> <p>・チェックリストを活用し、それぞれの取組を徹底することができたか。</p>	B

### 学部等③【知的障害教育部門 高等部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点 目標 1	・職業的自立に必要な基本的及び実践的なコミュニケーション力を高める。	・作業学習を中心に、生徒個々の課題となるコミュニケーション・対人関係等に関して、職業能力評価表の活用等、指導に努め、能力の向上を図っていく。	・職業能力評価表でのコミュニケーション ・対人関係面の評価において年度当初と比べ伸長が見られたか。	B
重点 目標 2	・教員の感染症に関する意識を高め、生徒が健康で安全な学校生活を送ることができるように努める。	<p>・保健室と連携を図りながら感染症の予防についての指導、環境整備等を計画、実践する。</p> <p>-----</p> <p>・ヒヤリハット事例を打ち合わせで共有し、危機意識を高める。</p>	<p>・感染症予防に関する教員、生徒用のチェックリストを作成、活用し、予防に関する意識の向上を図ることができたか。</p> <p>・感染症予防等の内容を指導し、生徒が健康について意識できるようになったか。</p> <p>-----</p> <p>・ヒヤリハット事例を共有することができたか。</p>	B

## 学部等④【肢体不自由教育部門 小学部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点目標 1	<p>【重複障害学級】</p> <p>・身近な人に対する表現力を高め、人や物に自ら働き掛けたり、行動したりする意欲を高める。</p>	<p>・個に応じた様々な表出方法を指導者間で共有し、指導に役立てる。</p> <p>・日常生活の指導、自立活動、教科の学習などで、教材や環境を工夫し、児童の主体性を引き出す活動を設定する。</p>	<p>・身近な人に、自分なりの方法で意思表示することができたか。</p> <p>・児童が自ら操作したり、発信や選択をしたりすることができたか。</p>	B
重点目標 2	<p>【肢体不自由教育部門共通】</p> <p>・教職員の危機意識を高め、肢体不自由のある児童生徒の学校生活における安全管理、感染症予防対策を強化する。</p>	<p>・日常の学校生活において、健康・安全上、留意すべき事項をリスト化した「B部門チェックリスト」を全職員で共有し、丁寧に児童生徒の観察を行う。また、昨年度ヒヤリハット事例が多かった以下の項目について重視し、再発を防ぐ。</p> <p>①車椅子の乗車時の適切な介助方法 ②安全な摂食指導</p>	<p>・具体策①②について、「B部門チェックリスト」に○印がついた割合が100%に近いか。○印の総数(19項目×14人)を元に評価する。</p>	B

学部等⑤【肢体不自由教育部門 中学部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点 目標 1	【重複障害学級】 ・様々な人と関わる表現力を高め、良好な対人関係や集団生活を築く力を育む。	【重複障害学級課程1】 ・国語、総合的な学習の時間、作業学習などの授業の中で、場面に合わせて表現の仕方を指導し、やり取りを行う機会を多く設定する。	・学習の中で、場面に合わせた表現の仕方を指導し、やり取りを行うことができたか。	B
		【重複障害学級課程2】 ・日常生活の指導、生活単元学習、自立活動、総合的な学習の時間などの授業の中で教師や友達に対して個に応じた表現方法で発信できるよう、やり取りを行う機会を多く設定する。	・やり取りを多く重ね、教師や友達との関わりの中で、個に応じた表現方法での表出が増えたか。	B
重点 目標 2	【肢体不自由教育部門共通】 ・教職員の危機意識を高め、肢体不自由のある児童生徒の学校生活における安全管理、感染症予防対策を強化する。	・日常の学校生活において、健康・安全上、留意すべき事項をリスト化した「B部門チェックリスト」を全職員で共有し、丁寧に児童生徒の観察を行う。また、昨年度ヒヤリハット事例が多かった以下の項目について重視し、再発を防ぐ。 ①車椅子の乗車時の適切な介助方法 ②安全な摂食指導	・具体策①②について、B部門中学部のチェックリストに○印がついた割合が100%に近づけたか。○印の総数(19項目×14人)を基に評価する。	A

## 学部等⑥【肢体不自由教育部門高等部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点 目標 1	【通常学級】 ・ 社会生活の諸活動に適切に対応する能力と態度を育む。	・ 商業、職業、ホームルーム活動等において、教師や地域の方々とのやりとりを重ね、実践的なコミュニケーション能力を培う内容を設定する。	・ 授業の指導計画に記載されている種々のビジネスマナーについて理解し、教師や地域の方々を相手に実践することができたか。成績を基に評価する。	B
	【重複障害学級課程1】 ・ 日常生活や社会生活における人との関わりの中で、伝え合う力を高める。	・ 国語、美術、総合の学習の中で、相手の話に関心を持ち、分かったことや感じたことを伝え合う活動を設定する。	・ 相手の話に関心を持ち、分かったことや感じたことを伝え合うことができたか。授業の反省から生徒の反応をまとめ評価する。	B
	【重複障害学級課程2】 ・ 集団生活、社会生活で必要となるコミュニケーション能力を高め、主体的に対人関係を築く力を身に付ける。	・ 日常生活の指導、生活単元学習、自立活動の授業の中で、身近な教師に対して、感情や要求を表情や発声、視線等で伝える場面を設定し、気持ちを丁寧にくみ取り、やりとりを重ねる。	・ 身近な教師に対して、感情や要求を伝えることが増えたか。授業の反省から生徒の反応をまとめ評価する。	B
重点 目標 2	【肢体不自由教育部門共通】 ・ 教職員の危機意識を高め、肢体不自由のある児童生徒の学校生活における安全管理、感染症予防対策を強化する。	・ 日常の学校生活において、健康・安全上留意すべき事項をリスト化した「B部門チェックリスト」を全職員で共有し、丁寧に児童生徒の観察を行う。また、昨年度ヒヤリハット事例が多かった以下の項目について重視し、再発を防ぐ。 ① 車椅子の乗車時の適切な介助方法 ② 安全な摂食指導	・ 具体策①②について、B部門高等部の職員チェックリストに○印がついた割合が100%に近いか。○印の総数(19項目×11人)を基に評価する。	A

## 学部⑦【訪問教育学級】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点 目標 1	・身近な人と関わりながら、働き掛けに応じたり、自ら発信したりする力を高める。	・実態に応じて、快・不快の感情や意思を表わすことができるよう、視線・発声・表情・身体の動きなどを細やかに観察し、記録をとりながら指導を継続していく。	・各児童生徒が実態に応じた表出や変容が見られたか(記録をもとに指導、支援の評価をする)	B
重点 目標 2	・児童生徒の心身の状況を的確に把握しながら、安全な指導を行う。	・その日の体調について授業前に保護者、施設職員に確認する。  ・授業後の児童生徒の様子を職員間で報告し合い次回の授業に活かす。  ・感染症対策として、教職員自身の健康管理と指導上の環境衛生の徹底に努める。	・毎回の授業でこれらを行い、事故等なく、安全に指導できたか。	A

## 学部等⑧【病弱教育部門 ひばり分教室】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点 目標 1	・自分の体調や気持ちを他者に伝えることができる。	・個々の発達段階や病状、実態に応じ指導場面を設定し、表現方法を支援する言葉かけを行う。  ・活動を通してできたことや難しかったことなど教師と一緒に振り返る機会を設定する。	・自分なりの方法で伝えることができたか。  ・自らの発言や行動を、振り返ることができたか。	B
重点 目標 2	・教員の危機意識を高め、防災・感染症などの社会状況に応じた対応について病棟と連携を図る。	・ヒヤリハット事例を活用し、教員間で共通理解を図る。  ・防災・感染症対策など病棟と情報の共有を図り状況に応じた対応をする。	・教員間で共通理解が図れたか。  ・病棟と情報共有を図り対応できたか。	B

## 校務分掌部①【教務部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点 目標 1	・基本研修等を通し、社会性の育成に関わるキャリア教育に関する指導力の一層の充実を図る。	・初任研、5年目研、中堅研等における課題研究や研究授業での社会性の育成に関わるキャリア教育に関する取組について、計画、実践、評価する。また学部会等で報告する場を設定し、学部内で共有する。	・研修者各々が社会性の育成に関わるキャリア教育の取組に関して報告書等に整理することができたか。また研修の成果を学部内で共有することができたか。	B
重点 目標 2	・修学旅行における感染症を含めた危機管理意識を高める。(主幹教諭・修学旅行検討会と連携))	・修学旅行検討会にて昨年度のヒヤリハット事例を呈示する。 また、感染症予防の対策を含めた危機管理対応について、各学部へ共通理解を図り、それらを踏まえた計画の作成及び、実施状況に関する評価を行う。	・感染症を含めた危機管理対応をおさえた計画の作成ができたか。昨年度の課題や今後の対応、ヒヤリハット等について修学旅行検討会及び各学部へ周知することができたか。	B

## 校務分掌部②【学習指導部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点 目標 1	・児童生徒が主体的に学びに向かい合う力を育むために、キャリア・パスポートの内容の見直し、作成を行い、教員への周知を図る。	・他県の情報を参考にし、本校のキャリア教育発達段階内容表の基礎的・汎用的能力の関連が分かるようにワークシートや教師用資料を作成する。	・月に1回以上、会議を設けてワークシート等の作成作業を進めることができたか。	B
重点 目標 2	・学習で使用する教材教具や遊具の状態について点検を行い安全管理を強化する。	・事前に破損や危険箇所がないかを確認し、単元題材指導計画の指導上の留意点に児童生徒の事故防止に配慮した内容を記入することで担当者間での共通理解を図る。	・各学部の学習指導係が具体策を周知し、単元題材指導計画に記入することで教員の危機意識を高めることができたか。	B

### 校務分掌部③【交流教育部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点 目 標 1	・交流活動を通し、他者と関わる経験を増やすことができる。	・交流の事前に目的、内容を再度確認する。児童生徒の参加方法、手立てや支援について相手と共通理解を図る。事後の反省を基に工夫改善を図る。	・児童生徒に適した交流活動を行い、他者と関わることはできたか。	B
重点 目 標 2	・感染症対策を含めた安全管理を意識した交流活動を計画、実施することができる。	・感染症に対する教員の意識を高め、場所の設定、交流の方法などを検討して計画、実施する。相手と共通理解を図る。  ・各活動に関係する危機管理マニュアルやヒヤリハット事例に目を通すように周知し、気になる箇所について意見を交換し合う。また、主担当は事前に避難経路を確認し、交流相手にも伝える。	・感染症予防に努め、安全に交流を行うことができたか。  ・交流相手と共通理解を図り、活動することができたか。  ・事前に安全管理の確認をすることができたか。  ・交流相手と一緒に避難経路の確認を行うことができたか。	B

### 校務分掌部④【生徒指導部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点 目 標 1	・実態に応じてより良い学級づくりに努め、社会性の育成に向けた指導の充実を図る。	・これまでの取組を学部毎に集約し、実践例集を作成する。それを活用し、より良い集団づくりを意識して指導に当たるように取組を促す。	・実践例集を作成し、提示することができたか。また、1月にアンケートを実施し、集団づくりを意識して取り組むことができた人が80%以上であったか。	B
重点 目 標 2	・安全教育の視点より、本校周辺の環境等についての危機意識を高め、日々の指導に活かすことのできる資料を作成する。	・栃木市のハザードマップを参考にし、学校周辺及び最寄駅からの経路に関する注意喚起マップを作成する。	・地形、天候、交通等といった要因を踏まえたハザードマップを作成し、提示することができたか。	B

## 校務分掌部⑤【健康指導部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点 目標 2 の 1	・教職員の感染症に対する意識を高め、感染防止行動の徹底を図る。	<p>・健康状態を確認できるように検温表を配付し、学部ごとに毎朝確認するよう声掛けをして徹底していく。</p> <p>・換気や消毒、手洗いなどの徹底を掲示板や学部会などで周知し、適宜声掛けをして実践するよう促す。</p>	<p>・毎朝検温表を提出するとともに、体調不良のときはすぐに申し出ることが定着したか。</p> <p>・教室などの換気や消毒、手洗いに対する意識が高まり、多くの教職員が実践できたか。</p>	A
重点 目標 2 の 2	・児童生徒に安全な給食を提供できるように努める。	<p>・栄養教諭と連携を図り、感染のリスクを考慮した環境を整える。</p> <p>・食事中の事故に対する危機意識を高めるために校内研修を行う。</p>	<p>・机や座席の間隔を空けたり、教員の関わり方を工夫したりすることができたか。</p> <p>・配膳方法や場所、献立などを検討し、実践できたか。</p> <p>・危機意識が高まり、未然に防止することができたか。</p>	A

## 校務分掌部⑥【進路指導部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点 目標 1	・卒業後の社会生活に向けて必要となる事柄や支援方法について保護者や職員に啓発を行う。	・進路だより(年4回)や保護者会や学部会等を通して、卒業後へ向けて情報を提供する。	・各学部に応じた必要となる情報を提供することができたか。	B
重点 目標 2	・教職員の安全に対する意識を高め、就業体験学習や産業現場等における実習において、安全に学習できるよう、計画・実施する。	・事前に作業内容や経路は安全であるか、また、実施当日は天候や生徒の体調は大丈夫かチェックシートを用いて確認を行う。  ・他にも事故等に遭遇した場合の対処法を確認する。	・校外での学習において、事故件数がなかったか。	B

## 校務分掌部⑦【渉外部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点 目標 2	・保護者と共に危機意識を高めて、PTA活動の安全管理を強化する。	・PTA行事を行う際には、危機管理マニュアルを基に計画を立てる。  ・新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、安全に実施する。  ・危機管理や安全管理について繰り返し伝えることで理解を促していく。	・しらさぎ祭で保護者向けチェックリストを活用できたか。  ・役員会で危機管理マニュアルの必要部分や重点的に取り組みたい安全管理について説明し、理解を得られたか。	B

## 校務分掌部⑧【地域支援部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点 目 標 2	・家庭や地域での安全な生活に向けて、教職員の問題を未然に防止する意識を高める。	・他機関との連携が必要な児童生徒への支援の充実に努め、必要に応じて関係機関を交えたケース会議を実施する。 (生徒指導部と連携する)	・ケース会議参加職員へのアンケートで8割以上が今後の支援に役立つと答えたか。	B

## 校務分掌部⑨【舎務部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点 目 標 1	・集団生活の中で、適切なコミュニケーション方法の指導に努める。	・舎生同士が適切な距離感を保ちながら、関わりを持つことができるように、友達と協力して活動する場面を意図的に設定する。	・舎生同士協力して当番活動を行うことができたか。  ・終了後に確認依頼をし、活動内容を振り返ることができたか。	B
重点 目 標 2	・舎生が自分の身を守ることができるよう、防犯や安全に関する意識を高めることができる。	・不審者の侵入を防ぐため、18時30分までに各所の施錠をすることができるよう、舎生が放送で施錠を促す。	・定刻までに施錠することができたか。	B
		・感染症予防のため下校後と食事の前、丁寧に手を洗うことができるように手洗いの音楽を流し、職員が洗い方の確認をする。	・丁寧に手を洗うことができたか。  ・ハンカチを携帯できていたか。	B